

事務事業名		国際交流情報提供事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画 画体系	政 策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	総務企画部	課長名	濱田 善也
	施 策	14	市民参画によるまちづくりの推進			所属課	企画財政課	担当者名	齋藤 正典
	基本事業	41	自主的地域づくり(まちづくり)への意識の高揚			所属班	政策企画班	(内線)	1245
法令根拠									
予算科目		会計 1	款 2	項 1	目 13	事業連番 -	☐ 20年度で終了 ☐ 21年度から開始		成果優先度評価結果 12 コスト削減優先度評価結果 6
事業期間		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度 H2 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)									
【事業の内容】 国際交流に関する情報を市民に提供する事業。 【業務の流れ】 県からの文書受付(通知・照会・回答) ポスター掲示・パンフレット窓口配布 【主な予算費目】 なし									

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動) 20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO) 県からの文書受付を行った。 ポスター掲示・パンフレットの窓口配布を行った。	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) 20年度と同じ。
	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) → ア 文書受付件数 件 イ
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 市民	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) → ア 人口 人 イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 国際交流関連の情報を得る。	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) → ア 国際交流の情報提供件数 件 イ
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか) まちづくりへの理解が深まる。	⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) → ア まちづくりに取り組みたいと思う市民の割合 % イ

(2) 総事業費・指標等の推移				単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ～ 年度		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円								総トータルコスト (期間限定複数年度のみ記載)		
			都道府県支出金	千円										
			地方債	千円										
			その他	千円										
			繰入金	千円										
			一般財源	千円										
		(A) 事業費計	千円	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
		うち指定経費	千円											
		うち時間外、特殊勤務手当	千円											
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	1	1			
延べ業務時間		時間	10	10	10	10	10	10	10	10				
	(B)人件費計	千円	40	40	40	40	40	40	40	40	40	0		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	40	40	40	40	40	40	40	40	40	0		
活動指標		ア イ	件	31	30	30	36	36	36	36	36	目標総合 数値計画 22年度	36	
対象指標		ア イ	人	53450	54047	54500	54407	55000	55500	56000			55500	
成果指標		ア イ	件	0	0	0	0	0	0				0	
上位成果指標		ア イ	%	61.2	64.5	63	62.5	66	70				70	

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 平成2年から数年間実施した国際交流派遣事業をきっかけに始まった事業である。	
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ 変化なし	
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 特になし	

事務事業名	国際交流情報提供事業	所属部	総務企画部	所属課	企画財政課
-------	------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は20年度の後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 市民が国際交流関連の情報をえることにより、結果のまちづくりへの理解が深まるに結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 県からの公共的な情報について、市が関与するのは妥当である。
	③対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象・意図とも現状で適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 公文書の受付及び周知業務のみで成果の向上余地はないが、現状を維持する必要がある。
	⑤廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) ☒ 影響有 ⇒【その内容】 市民に広く情報を伝えられなくなる。
	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 国際交流に関する事務は他にない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 公文書の受付及び周知業務の事務量であり、削減余地はない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 公共的な情報を処理する事務なので公平・公正である。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果 <table border="0"> <tr> <td>① 目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>② 有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>③ 効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>④ 公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり											
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり											
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり											
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり											

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善) ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持 低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持 低下			
				コスト														
		削減	維持	増加														
成果	向上		○															
	維持 低下																	

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

--	--	--	--	--

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1)目的の直結度	8	(直結度高い 1～3 直結度中 4～6 直結度低い 7～9)
(2)貢献度	12	(貢献度高い 1～3 貢献度中 4～9 貢献度低い 10～12)